

1. 活動の概要

7月7日(金)の午前中をかけて、松江市立宍道学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。最初は職員が宍道小周辺の遺跡についてパワーポイントを使って説明しました。学校の近くにどのくらいの遺跡があるのか、という質問では、40か所くらい、と近い回答もありました(正解は約 70)。たくさんの遺跡があることに驚いた子供たちが多かったのですが、遺跡というものが遠いものではなく、身近にあるものであることは理解できたのではないかと思います。

次に、火おこし体験を体育館入り口付近のアーケードで行いました。梅雨時でしたが天候に恵まれ、職員のデモンストレーションでは着火できませんでした、児童のうちの何組かで見事に火が着いていました。

火おこしの後は、視聴覚教室に戻って勾玉づくりです。こちらは時間をかければ掛ければ掛けるだけ良いものが出来上がります。紙やすりで最後のツヤだしまで進んでいる子もいました。

2. 活動の様子

1)宍道小周辺の歴史について知る



学校の周りの遺跡を学ぶ



土器を触ってみた！

2)体験活動 火起こし・勾玉づくり体験



煙は出るけど火はなかなかつかないね…



勾玉づくり、とにかく集中！

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・宍道の古墳を見に行ってみたい。
- ・火おこしが大変だった。またやってみたい。

- ・今のような道具がない時代に、きれいな勾玉を作れたのはすごい。
- ・宍道にたくさん遺跡があるので驚いた。

2)担任の先生から…

- ・近隣の遺物・遺跡について教えてもらい、身近な歴史に対する興味、故郷への愛着が強まった。
- ・勾玉できあがりイメージが持ちづらい。児童用完成品があるとよい。

3)古代文化センターから

今回は午前中全体を使って、宍道の遺跡、火おこし体験、勾玉づくり体験と、歴史についてたくさん勉強してもらいました。火おこし体験は力も使いますので、途中で疲れる人も出るかと思っていましたが、みな最後まで集中力をもって授業に臨んでくれました。

火おこし体験は、我々職員もうまくいかなかったのですが、二人ひと組で取り組んで、みごと炎が起こった班もありました。火はつけられなかったけれども、煙が出るところ、また火種が着くところまではみな到達し、摩擦による火おこしの原理や、火おこし自体が大変な作業であったことはよく理解できたと思います。

つづく勾玉づくりは、一転して個人の集中力が必要な作業です。今回用いた石材は、削りやすい滑石ですが、それでも根気が必要です。また、やすりを固定し玉を動かして削ったほうが効率が良いこと、最後の仕上げ、ツヤ出しには目の細かいやすりが必要なことなど、道具の使い方を工夫することで出来上がりがちがうことなども気づけたのではないのでしょうか。

古代の人々は、現代では容易にできることを真剣に、時間をかけて、工夫していたことが理解され、教科書のなかに書かれている歴史について、身近なものとして感じてもらったのではないかと思います。